

2024 年 12 月 11 日

2023 年度版

2023 年 4 月～2024 年 3 月

環 境 経 営 レ ポ ー ト

東京プラスチック株式会社

《 目 次 》

	頁
1. 事業活動の規模	1
2. 環境経営方針	2
3. 環境保全推進体制	3
4. 環境保全計画	4
5. 環境活動目標とその実施状況	5
6. 取組事例紹介	8
7. 環境関連法規制の遵守状況の確認と評価、 並びに違反・訴訟等の有無	10
8. 代表者による見直しの要旨	10

1. 事業活動の規模

(1) 事業所名および代表者名

東京プラスチック株式会社

代表取締役 田村 義幸

(2) 所在地

本社工場

〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井34-8

注型工場

〒197-0802 東京都あきる野市草花2220

(3) 環境保全関係の責任者および担当連絡先

責任者 清水俊次 (shimizu@tokyo-plastics.co.jp)

担当者 環境保全推進事務局 枝窪 基 (edakubo@tokyo-plastics.co.jp)

連絡先 電話 042-597-2440

FAX 042-597-3511

(4) 事業の内容

プラスチック試作モデル、精密部品の加工および販売

(5) 事業の規模

活 動 規 模	単 位	2021 年度	2022 年度	2023 年度
		21/4～22/3	22/4～23/3	23/4～24/3
販 売 金 額	百万円	826	1174	845
従 業 員 数	人	46	45	47
敷地面積 (本社・工場)	m ²	2,300	2,300	2,300
敷地面積 (注型工場)	m ²	231	231	231
床面積 (本社・工場)	m ²	1,500	1,500	1,500
床面積 (注型工場)	m ²	188	188	188

※会計年度は4月から翌年3月までです

当社においては、環境管理システムを構築した上での環境保全活動を2000年度(平成12年)にスタートしています。2018年度より4月から3月までを活動の年度単位とし、本環境経営レポートは2023年度の活動を主に紹介いたします。

本環境経営レポートは2006年1月以来18度目の発行となります。

2. 環境経営方針

東京プラスチックス(株) 環境経営方針

環境保護の理念

東京プラスチックス株式会社は試作品の製造メーカーとして事業活動に於ける環境への負荷低減を常に念頭に置き、全社一丸となり継続して環境保全の取組みを推進してまいります。

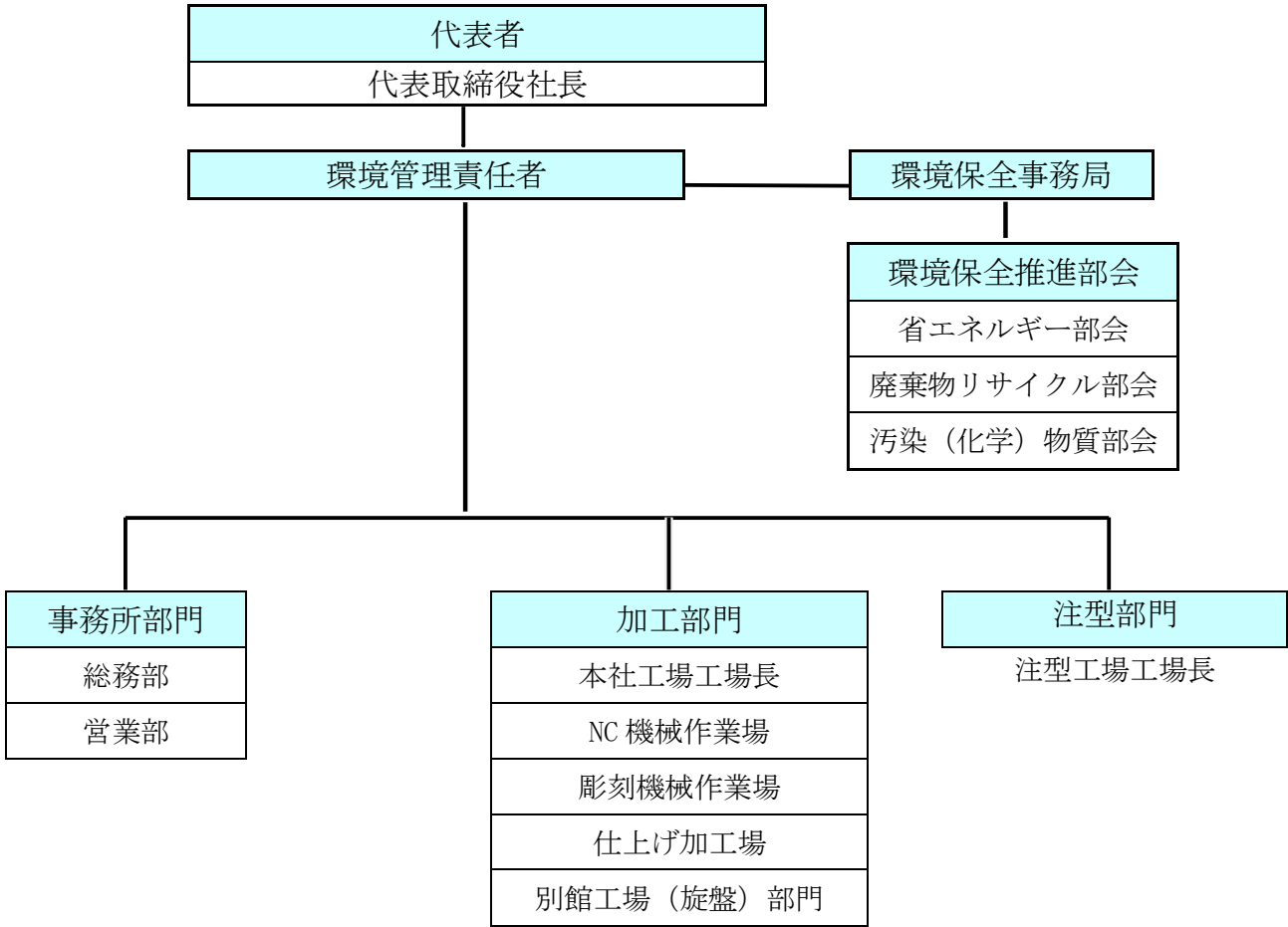
環境保全活動の基本方針

1. 省資源・省エネルギーに取り組み二酸化炭素の排出削減に努める。
2. 分別回収を徹底し、廃棄物の削減とリサイクルの向上に努める。
3. 事務用品等のグリーン購入を推進する。
4. 周辺道路の清掃、地域の美化活動に積極的に参加をして、自然環境の保全に努める。
5. 環境に関する法規制や条例を遵守する。
6. 社内に於ける環境教育、広報活動を実施し、全社員に環境保全の意識の徹底を図る。
7. 環境目標を定め、日頃の活動を把握し、環境マネジメントシステムの検証を行い改善を行う。

2019 年 10 月 1 日

東京プラスチックス株式会社
代表取締役 田村 義幸

3. 環境保全推進体制



代表者	「環境経営方針」を決める
	代表者による評価と見直し・指示を行う
	経営における課題とチャンスを確認にする
	必要な経営資源を用意する
	「環境経営レポート」の承認をする
環境管理責任者	取り組み計画をつくる
	進捗状況の確認と評価をする
	「予防・是正処置」の対応指示と結果の確認をする
	環境活動の取り組み結果を代表者に報告する
環境保全推進部会	部門毎に従業員に対して教育訓練を実施する
	部門毎に環境活動計画の達成状況を環境管理責任者に報告する
	部門毎に「予防・是正処置」に対処し、環境管理責任者に報告する
環境保全事務局	実施記録や文書の作成・保管・管理をする
従業員	環境経営方針を基に環境への取り組みの重要性を理解し実施する
	法律や環境保全推進部会の決定を守る

図 東京プラスチック株式会社環境管理組織（2023 年 4 月現在）

4. 環境経営目標

2024 年度から 2026 年度までの 3 年間の環境活動計画を表に示します。なお、各年度は 4 月から翌年 3 月までです。

活動	目的	目標		
		2024 年度	2025 年度	2026 年度
二酸化炭素	排出量削減	年間排出量 600t 以下	年間排出量 600t 以下	年間排出量 600t 以下
省エネ活動	電気使用量削減	年間使用量 840,000kWh 以下	年間使用量 840,000kWh 以下	年間使用量 840,000kWh 以下
	ガソリン燃料節減	年間消費量 24,000L 以下	年間消費量 24,000L 以下	年間消費量 24,000L 以下
廃棄物削減と リサイクル	廃棄物削減	産業廃棄物 年間 16.8t 以下	産業廃棄物 年間 16.8t 以下	産業廃棄物 年間 16.8t 以下
	リサイクル率向上	リサイクル率 40%超	リサイクル率 40%超	リサイクル率 40%超
化学物質	化学物質の管理	管理棚の整備	管理棚の整備	管理棚の整備
清掃活動	地域美化	朝の屋外清掃を継続	朝の屋外清掃を継続	朝の屋外清掃を継続
グリーン購入	エコ商品の購入	エコ文具の優先的購 入	エコ文具の優先的購 入	エコ文具の優先的購 入
教育・訓練	社員の意識向上	自主防災訓練	自主防災訓練	自主防災訓練

5. 環境保全活動の状況

5.1 2023 年度環境保全活動目標とその達成状況

2023 度（2023 年 4 月～翌年 3 月）の目標に対する実績と評価

（目標を設定して活動した本社・工場のみ）

活動	目的	目標	達成レベル	評価
二酸化炭素	排出量削減	年間排出量 600t	415.8t 目標比-184.2t 前年(422.6t)比 6.6t 減	○
省エネルギー	電力使用量の削減	年間使用量 840,000kWh	745,627kWh 目標比-94,754kWh 前年(762,754kWh)比 17127kWh 減	○
	ガソリン燃料の削減	年間消費量 24,000L	23,377L 目標比-623L 前年(23,338L)比 39L 増	○
廃棄物削減とリサイクル	廃棄物削減	年間排出量 16.8t	14.8t 目標比-1.2t 前年(12.0t)比 2.8t 像	○
	リサイクル率向上	リサイクル率 40%超	リサイクル率 35.1%	×
化学物質	化学物質管理	管理棚の整備	適正管理	○
清掃活動	地域美化	朝、清掃活動実施	継続	○
グリーン購入	エコ商品購入	エコ文具優先購入	エコマーク確認を義務付け	○
教育・訓練	意識向上	防災訓練	訓練の実施はしていない	×

(注 1) 購入電力の CO2 排出係数については、(株)グリムスパワーの排出係数 0.48kg-CO2/kWh を用いて算定しました

(注 2) 水は生活用のみで、節水を徹底しているので、環境目標を設定していない

(注 3) 廃棄物の年間排出量に示される数値は再資源化できない廃棄物の総量としています

5.2 環境保全活動の評価

2023 年度（2023 年 4 月から翌年 3 月まで）の環境保全活動計画における取組結果を紹介します。

活動	目 的	実施事項	評価	コメント
省エネ活動	電気使用量削減	昼休みの消灯 温度設定の徹底管理 （暖房 20℃冷房 27℃） 工場内エア配管からのエア漏れを無くす	○ ○ ○	できている 概ねできている できている
	ガソリン燃料削減	アイドリングストップ実施 営業車の巡回経路の効率化	○ ○	— —
廃棄物削減とリサイクル	廃棄物削減 リサイクル率向上	端材の種別分別徹底 一般廃棄物分別徹底	○ ○	— —
化学物質	化学物質の管理	管理棚の整備	○	—
清掃活動	地域美化	朝の屋外清掃を継続	○	—
グリーン購入	エコ商品の購入	エコ文具の優先的購入	○	購入担当者へのエコマーク確認を義務付けた
教育・訓練	社員の意識向上	工業団地防災訓練 緊急事態（化学物質）想定訓練の検討・実施	×	訓練はなかった （小川防災に訓練実施の依頼）

5.3 注型工場の環境負荷の状況

注型工場では主にウレタン樹脂の型物製品を製造しています。過去から電力使用量削減廃棄物発生抑制、資源使用量削減の取組を行ってきましたが、2019 年度から EA21 の対象事業所になっています。

分類	項目	単位	2022 年度	2023 年度
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素 (燃料使用なし)	t-CO ₂	31.5	34.1
	電力使用量	千 kWh	68.8	74.5
② 自社発生廃棄物 量・一般廃棄物・産業廃棄物の処理量	一廃廃棄物 (可燃ごみ)	t	0 (発生なし)	0 (発生なし)
	産業廃棄物	t	7.67	5.92
③ 排水量・水使用量	下水道	m ³	集計不能	65
	上水	m ³	集計不能	65
④ 物質使用量	シリコン樹脂	t	1.7	1.0
	ウレタン樹脂	t	1.3	0.9

(注 1) 購入電力の CO2 排出係数については、東京電力エネルギーパートナー(株)の 0.457-CO2/kWh を使用しました。

5.4 2023 年度二酸化炭素総排出量

本社工場	415.8 t-CO ₂
注型工場	34.1 t-CO ₂
総排出量	449.9 t-CO ₂

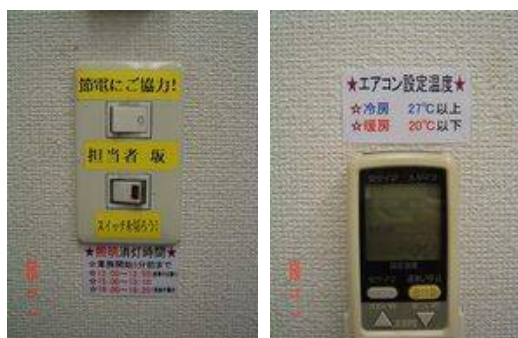
5.5 2024 年度の取り組み

これまでと同様に省エネ、リサイクル等の環境方針を遵守し、二酸化炭素削減の取り組みを徹底するとともに、当社に於ける最大の要因である電力消費を抑制するための可能な手段を会社全体で模索し、目に見える成果を得られる様努力する。

注型工場については、今年は出来なかったが、目標とその基準を設定し、また必要な手順を整備して取組を進めていく。

6. 取組事例紹介

～省エネ活動～



スイッチ類への表示

①電力削減

始業前5分、昼休み、3時休憩、残業時の無人箇所の消灯を徹底しています

空調の温度管理（暖房 20℃以下、冷房 27℃以上）を徹底しています

②LPガス削減

乾燥室の熱効率を上げる為、天井を低くして部屋の容積を小さくしました



乾燥室



③照明のLED化

作業場の蛍光灯をLEDにして電力の削減に努めています

～化学物質～

化学物質の適正管理
落下、転倒防止等の定期点検と月に1度の在庫確認をしています



有機溶剤保管場所



少量危険物保管庫

～リサイクル～

廃プラスチックの分別推進
従来のゴミのほとんどの部分を
サーマルとマテリアルのリサイ
クルにまわしています



切削粉も再生材に



端材は種類別に分けて



産廃用ゴミ箱

～屋外清掃～

毎朝 8:15～8:25 に三人一組
で工場屋外の清掃活動をし
ています



清掃作業

～防災訓練～



消火器体験

地域工業団地主
催の合同防災訓
練不参加



通報訓練



煙体験

7. 環境関連法規制の遵守状況の確認と評価、並びに違反・訴訟等の有無

当社に關係する環境関連法規及び取引先等との同意する要求事項には適切に対応しています。主な関連法規を下表に示します。 また、係争中の訴訟及び近隣からの苦情は過去3年間ありません。

表：関連する主な法律

規 制	該当項目	遵守状況・評価
廃棄物処理法	業者との契約	○
	マニフェストの保管と知事への報告	○
	特管責任者を置く	○
	一時保管場所の掲示・管理	○
消防法(都条例)	危険物適正保管 (第4類、第1石油類) 塗料、シンナー類	○
悪臭防止	臭気放出無し(トルエン・キシレン)	○
労働安全衛生法	S D S 整備	○
PRTR(東京都条例含む)	東京都に届出(トルエン・キシレン・ ジクロロメタン)	○

8. 代表者による見直し・指示の要旨(2024年12月実施)

“産業廃棄物のリサイクル率が低下していることに懸念を覚えます。マテリアルリサイクルができないならば目標値の見直しも検討してみてください
また、エアコンは『過ごしやすい』ではなく『温度を保つ』を意識した設定を要請します
働き方改革により就業時間が短縮する中、不良の削減を常に意識してもらいたいと思います”
新たな防災訓練については小川防災さんとの日程調整を急ぎ、なるべく早期に実施したいと思います